

令和二年三重県支部紙上吟行句会

令和二年九月

石井いさお支部長特選

流灯の水につまづく帰心かな

いりやま勝栄

鉦太鼓闇粉粉に石取祭

平野透

夕蟬やひと日に乾ぶ供華替へに

樋口多美子

宮田正和特選

一塩を光振るかに夏料理

松村正之

海女けふも使はずじまひ日向水

西尾敬一

坂口緑志特選

来し方をないませにして走馬灯

中山暁代

槇垣の整ふ村や終戦日

橋爪里子

平田冬か特選

水が水押し出す一瞬滴れり

金津やよい

襦袢の子水遊びより引き抜かる

岡島千秋

尾崎亥之特選

新蕎麦や地産地消の山暮し

近藤昶子

身に余る院号賜ふ豊の秋

川口照代

福山良子特選

斎野に残る奈良道稻の花

小林青波

椰子の葉を焼べて太りぬキャンプの火

坂口緑志

西尾敬一特選

蜻蛉のために杭立つ渡し跡

近藤昶子

蝉声の只中にゐて森しづか

米野てるみ

池田緑人特選

浜木綿や小さき旅を赦されて

林里美

曝す書のはたちの書込み固き文字

石田壽賀子

前田照子特選

槇垣の整ふ村や終戦日

橋爪里子

襦袢の子水遊びより引き抜かる

岡島千秋

松本愛子特選

蟬声の只中にゐて森しづか

米野てるみ

星今宵牛のすべてに乙女の名

小林青波

高点句 4点

襦袢の子水遊びより引き抜かる

岡島千秋

高点句 3点

八幡の闇に打込む盆太鼓

伊室美枝子

一塩を光振るかに夏料理

松村正之

心太売手買手の海女訛り

谷口ちほ

蜻蛉のために杭立つ渡し跡

近藤昶子

泣いたまま渡す赤子や豊の秋

廣波青

溪流の景に溶け込む鮎釣り師

小林保雄

斎野に残る奈良道稲の花

小林青波

新涼やひと声長く牧の牛

濱浦厚子

中辺路の茶屋の二代目芋茎干す

福田優子

昴を畳みて荒鶉籠に入る

伊藤孝子